

笑しらかわ顔



スポーツを通じて心身の健全な育成と

明るいまちづくりを推進しよう

リオパラリンピックボッチャ競技銀メダル獲得

大きな一歩

日本ボッチャ協会 村上 光輝

「大きな一歩。」この言葉は私がヘッドコーチとして参加した、2016リオパラリンピックボッチャ競技 TeamBC1-2で銀メダル獲得後、キャプテン杉村選手の言葉です。私はこの言葉が大好きです。

ボッチャ競技はパラリンピックの正式種目で、誰でも簡単に取り組み、戦略を考え、試合の駆け引きが楽しいスポーツです。障がい者のスポーツとして普及したため、一般に知られていないのが現状です。今回、銀メダルを取った選手たちは2012年ロンドンパラリンピックから一緒に世界と戦ってきました。ロンドンでは7位入賞。過去最高の成績でしたが、ボッチャというスポーツがテレビや新聞に取り上げられるまでには至りませんでした。



ボッチャ競技は脳性麻痺など手足に障がいがある方が、ボールで行うカーリングのような競技で、パラリンピックに出場するには、世界各国で行われる大会に出場し、ワールドランキングで上位にならないとなりません。パラリンピック独自のマイナー種目であるため、資金援助は少なく、大会参加はほぼ自己負担です。飛行機の乗り継ぎ、ホテルでの生活は全てがバリアフリーではないので困難もありますが、全ては選手とコーチの協力によってクリアしていきます。チームで勝利を勝ち取る楽しさが、選手もコーチも競技の継続に費用がかかっても気にならないほどの魅力があります。

「ボッチャの魅力を多くの方に知ってほしい。2020東京オリンピック・パラリンピックは会場を満員にしたい。」選手はこのような想いで今回の銀メダルを獲得し、見事ボッチャの知名度を上げました。大きな一歩です。私はこの想いに賛同し、大好きであった教員の仕事を辞めました。私にとっても選手に背中を押された新しい一歩となりました。今後は誰でも参加できるボッチャの大会を通して、選手の活躍に国民の注目が集まるような取り組みを、地元白河から歩み始めていきたいと思えます。



長寿の秘訣は「楽しむこと！」

スポーツフェスティバル特別賞 松本 照子さん



ダブルダッチの練習をする松本さん

体育の日の10月10日、今年度もしらかわスポーツフェスティバルが中央体育館において開催されました。500名を超える参加者の中、最高齢89歳で多くの種目に挑戦し特別賞を受賞された、松本照子さんにお話をうかがいました。

●スポーツフェスティバルには毎年参加されているのですか？

第1回目から毎年恒例で参加しています。毎年楽しみにしています。

●若いころから、何かスポーツはされていたのでしょうか？

子どもとドッジボールをするなど遊び程度で、本格的にスポーツはしていませんでした。

●現在はバドミントンなど、いくつかスポーツをされているそうですが、本格的にスポーツを始められたのはいつごろからですか？

57歳の時にバドミントンを始めたのが最初です。現在はバドミントンのほかグラウンドゴルフ、パークゴルフをやっています。グラウンドゴルフの県南地区の大会では3年ほど前ですが、女性100人の中で優勝しました。チームの皆さんが優しく受け入れて支えてくれるからこそ続けられています。有難いことです。

●長寿の秘訣を教えてください。

何でも「楽しむこと！」です。朝起きて、今日も天気がいい！と思うだけで楽しいです。もともと身体は丈夫で体を動かすことは好きでしたが、57歳でバドミントンを始めてから何でも「楽しむ！」と思えるようになりました。

この年齢になると、あちこち身体が痛いときもありますが、スポーツをして楽しんでいると痛みも忘れてしまいます。(歳なので)休んでも治るわけではないでしょうから…動かないのは損！なので、毎日のように楽しみながらスポーツをしています。

●今後の目標を教えてください。

4年後の東京オリンピックまで元気にスポーツを楽しんでいきたいです。

インタビュー当日も午前中2時間ほどバドミントンで汗を流していた松本さん。チームの皆さんと生き生きと体を動かしている姿が印象的でした。これからもスポーツを通じて健康で明るい毎日を送ってほしいと思います。

松本さんの記録

種 目	記 録	種 目	記 録
ゴ ル フ パ ッ ド	5回	ジ グ ザ グ ド リ ブ ル	36.88秒
立 ち 幅 跳 び	1m09cm	自 転 車 最 高 速 度	30Km/h
ゲ ー ト ボ ー ル の ゲ ー ト く ぐ し	連続 3回	わ な げ	14点
ス ト ラ ッ ク ア ウ ト	2枚	ス カ ッ ト ボ ー ル	1点
な わ と び	99回	ダ ブ ル ダ ッ チ	両足22回
ビ ッ ク ダ ー ツ	30点	長 座 体 前 屈	24.5cm
握 力	右 19.5Kg	反 復 横 跳 び	32点
	左 20.0Kg	垂 直 跳 び	11cm
上 体 起 こ し	15回		

「市内各小学校での体育指導方針と活動状況」

白河市立釜子小学校 大金 正太



釜子小学校の体力向上に向けた取り組みは、年間を通して体育的行事を行ったり、校外の大会に参加したりしながら、目標を持って運動に取り組ませることです。春は運動会・体力テスト、夏は日清カップ・マラソン大会、秋は陸上大会、冬はなわとび記録会に取り組んでいます。

体育の授業では、県で推奨している「運動身体づくりプログラム」を自校化し、主運動に合わせて内容を組み替えたり、体力テストで落ち込んでいる部分に特化した運動をアレンジしたりして行っています。さらに、特設陸上クラブで行っている基本ドリル（ストレッチ動作・大きな筋肉に刺激を与える動作・全身をバランスよく使う動作・走り動作）も体育の授業に取り入れています。

また、体育の実技研修会やコーディネーショントレーニング研修会に多く参加し、校内研修で伝達等を行いながら、体育の授業の充実や指導の向上に向けて取り組んでいます。

白河市立小野田小学校 教頭 舟木 裕子

本校は、全校児童88名の小規模校で、自然環境に恵まれた場所にあります。児童は、素直で元気に学習や運動に励んでいます。

本校では、小規模校のよさを生かして、全校児童が一丸となり、様々な活動に取り組んでいます。火曜日の昼休みには、縦割り班による外遊びを奨励しています。また、金曜日の朝の時間には、フライデー運動と称して、マラソンや運動身体プログラム、縄跳びなどを行い、体力向上を図っています。さらに、特設陸上部を設立し、放課後にも運動する機会を設けることで、上学年の児童は目標を持って前向きに活動しています。また、マラソン大会や縄跳び記録会などの各種体育行事に向けて、児童が自主的に運動できるような学習カードを活用することで、進んで運動する姿が見られます。

このような運動経験を通し、自らベストを尽くして運動するよさや、楽しさを味わわせ、心身ともに健康でたくましい子どもを育てるようにしています。今後も児童の体力向上を目指し、保護者や地域の方と連携しながら取り組んでいきます。



白河市立信夫第一小学校 青木 光貴



本校の体力づくり推進計画に「自己ベストをめざして体力づくりに励む子」を掲げ、体育の授業はもとより、学校生活全般を通して取り組んでいます。

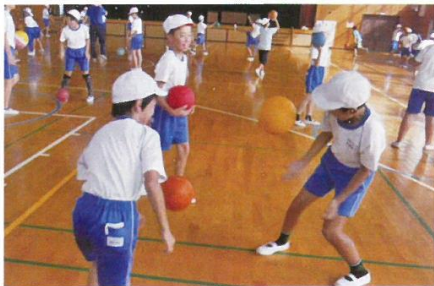
まず、子どもたちの体力づくりは朝の活動から始まります。登校してから始業までの時間は校庭に出てボールや遊具を使って楽しく遊ぶ姿が見られます。「運動会」や「マラソン記録会」など体育的行事が近づくと、関わりのある活動を全校生で取り組み、体力向上及び協調性の育成を図っています。体育の授業では、いろいろな運動に親しみ、体を動かす経験を通して楽しさや喜びを味わわせています。今年度も、体育アドバイザーの活用を図り、鉄棒やマット運動など、器械体操の技やコツにも触れることができました。体を動かす楽しさが原動となり、進んで運動に取り組むことで、健康増進と体力の向上を図ることをねらいとしています。

さらに、3年生以上が所属する「特設陸上クラブ」の年間を通した取組もあり、基礎体力が向上している児童が増えています。また、健康な生活を考えて望ましい習慣や知識や態度を育てることも体力づくりにつながることを考えて指導しています。

大屋小学校は、全校児童61名の小規模校です。体育の授業は、1・2年、3・4年、5・6年が合同で行い、互いに技を見合ったり、教え合ったりしています。合同にすることでゲーム等が盛り上がり、みんなで楽しく体を動かすことができます。

本校では、体育の授業では、運動身体プログラムを全学年で行い、体力の向上を図っています。昨年度から、授業にフラッグフットボールを取り入れたり、フラッグを使った鬼遊びなども行ったりして、運動が苦手な子どもも楽しく体を動かすことができるように工夫して取り組んでいます。

また、休み時間を利用して、運動会へ向けた全校リレーの練習を行ったり、マラソン大会に向けてランタイムを実施したりして、走力を高めることに努めています。3学期は、なわとび記録会に向けて練習を行う予定です。



表郷小学校では、体育的行事として「運動会」「水泳記録会」「マラソン記録会」「縄跳び記録会」があり、それらの行事に対し、目標を持たせて取り組ませています。その中で、体力・運動能力を高めるとともに、本気で取り組むことの大切さも身に付けさせています。

また、体育の授業では、運動身体作りプログラムだけでなく、今年度からコーディネーショントレーニングを取り入れ、体力・運動能力の改善だけでなく、心の安定を図ることに取り組んできました。少しずつその成果が表れ、新体力テストの結果も上昇傾向にあります。

しかし、本校は学区が広く、スクールバスやJRバスを利用して登下校をする児童が多いためもあってか、肥満傾向の児童が増えているのが現状です。そこで、養護教諭が児童への生活指導をするとともに、家庭との連携を図っているところです。

信夫第二小学校は、全校生51名の小規模校です。『体をきたえる子ども』の教育目標のもと、体育の授業の他、学校行事や日常生活で進んで体を動かす機会を増やし、体力の向上が図られるよう継続した活動を推進しています。

特に、年間計画の学校生活の中では、業間時に「キララ体育」という時間を設定し、季節や体育行事に合わせた運動を、10分から15分程度で実施しています。4・5月は運動会の練習、6月から9月は「運動身体づくりプログラム」を中心とした活動、10・11月はロードレース大会に向けた持久走、12月からはなわとび活動と、年間をとおして全校生で行っています。

上級生が下級生の面倒をみながら、そして、自発的・意欲的に運動の楽しさを味わいながら、体力の向上が図られるように工夫し取り組んでいます。



😊😊 スポーツスマイリィクラブ 3年目に向けて

○スマイリィクラブの現状について

昨年度4月より、従来の市民スポーツに継続してできる教室を加えてスポーツスマイリィクラブが発足し、これまで361人の入会がありました。2年目の現在も元気に活動している中、事務局では3年目に向けて今回、会員さんの年齢分布や、入会してからの継続年数を調べてみました。

年齢分布(表1)では、ベビーから小学校低学年までの低年齢の子どもと41歳～70歳の受講者が多く、表にはありませんが一般の方の男女比に関しては男性が4名、女性が65名と圧倒的に女性が多いのが現状です。

また、退会してしまった方も含め入会してからの継続期間を調査したところ表2のような結果となりました。約半数の方は半年以上の継続が見られます。その反面、現在継続している方も含まれていますので一概には言えませんが、全体の30パーセント弱の方が3ヵ月未満となっています。

○スマイリィクラブの今後の課題

今年度の目標の一つである子供の体力向上に関しましては、幼児・小学生共に定員をオーバーしての申し込みがあり、たくさん子どもたちが毎週楽しく身体を動かしています。小学生の部では、定期的に体力テストを行い、その結果からも少しずつ体力の向上が見られます。また、後期より幼児の教室を増やし年度初めに教室に入れなかった子どもたちの対応もしています。

もう一つの目標であったお年寄りの寝たきり防止、医者いらずで生涯現役に関しても元気なうちから運動を！ということ

ことで、50代60代の参加が多くみられました。さらに、70代80代の運動をほとんどしない方たちへどのような作戦で働きかけをするか・・・。なかなか難しい課題かと思われそうですが、地道に声をかけ、少しずつ運動の輪が広がっていくよう努力し続けていくことが大切です。

また、入会された方に長く運動を継続していただくためにも、受講者がまたやりたい！と思えるように身体を動かす楽しさを十分に味わって、さらに運動の効果を実感できるような内容の工夫が求められます。予算と人手の問題は否めませんが、大信・表郷・東地区においても歩いて気軽に参加する

ことができる運動の場を提供し、白河市民全体の皆さんの健康づくりのお役に立てるような体制を整えて行くことが今後の課題であると考えています。各地区の保健センター、公民館との縦の連携した取り組みが鍵となるでしょう。

入会からの継続期間	人数
～ 1ヵ月未満	56人
1ヵ月以上～3ヵ月未満	53人
3ヵ月以上～半年未満	71人
半年以上～1年未満	118人
1年以上～	63人
合計	361人

『表2 入会からの継続期間』

『表1 年齢の分布』 (11月末)

区分	年齢	人数
ベビー	0～2歳のお子さんとママ	25人
キッズ	4歳～6歳	57人
ジュニア	6歳～9歳	33人
	9歳～12歳	11人
中高生	12歳から18歳	0人
一般	18歳～40歳	2人
	41歳～50歳	11人
	51歳～60歳	19人
	61歳～70歳	29人
	71歳～80歳	6人
	81歳から	2人
合計		195人



『ノルディックウォーキング教室』

スポーツスマイリィクラブ各種教室の内容・料金など詳しくは、非営利活動法人白河市体育協会事務局 白河中央体育館内 (0248-29-8655) までお問い合わせください。

「ボランティア活動における法的責任について」

N P O 法人 白河市体育協会
監事 吉川 幸雄（弁護士）

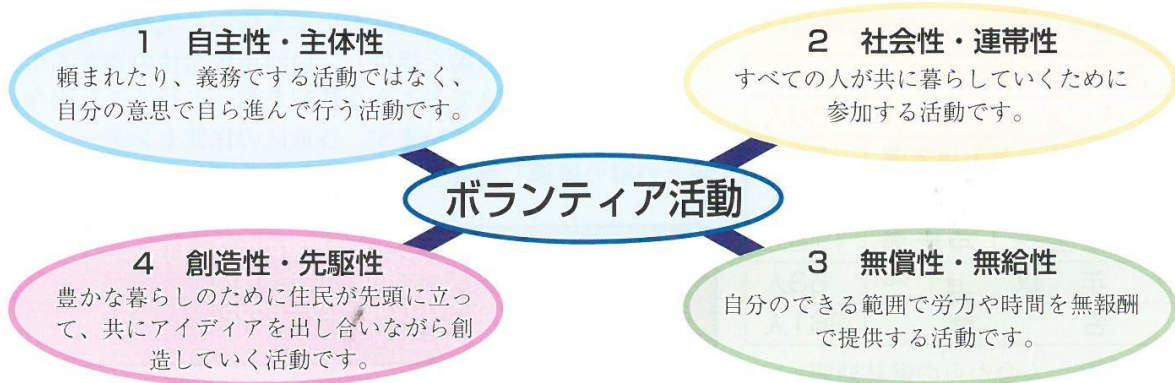
皆さんは色々なスポーツにおいて指導者としてボランティアで活動をしていることと思いますが、このスポーツ活動中に子供が怪我をしたような場合、ボランティアで行っているから全く責任を負わないと考えているのでしょうか。事故が起きた場合に責任を問われることを考えるとボランティアでの活動が後退してしまいますが、一応どういふ場合に責任を問われるのか頭に入れて活動してください。

責任というと大きく分けて、民事上の責任と刑事上の責任があります。

ところで、民事上の責任が問われるかどうかについて、次のような裁判例があります。子供会のハイキングに参加した児童が、川遊び中に水死した事故について、引率したボランティアが不法行為責任を負うかどうか争われた裁判でした。

この裁判で、裁判所は子供会活動が引率者の無償行為により支えられていることを高く評価しつつも、それだからといって直ちに引率者の監視・監督責任が否定されることにはならないとし、川遊びが実施された具体的な状況から、引率者の監視・監督責任を認めています。但し、指導的なメンバーのみの責任を認め、単なる引率者に過ぎない者の責任は否定しています。そして、引率者に監視・監督責任があるか否かの判断に当たっては、計画段階における準備、場所の選定の適否、参加児童の年齢構成や行動特徴などから、現場で要求される監視・監督体制の適否などが検討されています。その上で、この裁判では同行しなかった親の立場等を考慮し、引率者の責任を損害賠償額の2割と判断しました。

このように、単にボランティア活動だからというだけでは、損害賠償責任は免れません。無償のボランティア活動であっても、他人の子供を預かる以上、責任があることを認識すべきです。但し、その責任が問われるのは参加児童の年齢構成や行動特徴、当該活動の危険性などの事情を把握した上で、場所の選定、現場で要求される監視・監督体制について、計画段階から入念に検討し、実際に現場でこのことを注意しながら行なうことが必要です。そして、万が一このように一般的に要求されていることを行っても不幸な結果が発生した場合には責任はありません。



第57回白河市民総合体育大会成績一覧

	種 目	1位	2位	3位	参加 チーム	参加人数	開催月日	会場
1	ス キ ー	個人戦				中 止	2月21日	グランディ羽鳥湖 スキーリゾート
2	ゴ ル フ	個人戦				40	5月25日	新白河ゴルフ倶楽部
3	野 球	本 沼	南 湖 ニュータウン	みさか 双 石		135	6月14日～ 9月13日	白河Gスタジアム
4	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	本 町	みさか		2	19	6月18日	国体記念体育館
5	パドミントン						開催無し	
6	綱 引	第一区 (男子)			4	39	7月2日	中央体育館
7	家 庭 バ レ ー ポ ー ル	第一区	昭和町		11	94	7月3日 10日	国体記念 東風の台体育館
8	グ ラ ウ ン ド ゴ ル フ	個人戦				78	7月9日	陸上競技場
9	自 転 車	個人戦				57	7月10日	陸上競技場
10	ソフトボール	みさか	南 湖 ニュータウン			105	7月17日	大信総合運動公園 多目的グラウンド
11	アーチェリー	個人戦				8	7月17日	すばーく白河
12	水 泳	中 止					7月24日	市民プール
13	陸 上	個人戦				39	7月31日	陸上競技場
14	ソフトテニス	個人戦				6	7月31日	市民テニスコート
15	バレーボール	中 田	金 杯 クラブ	石切場 新 蔵	5	48	8月7日	第三市民体育館
16	テ ニ ス	個人戦				7	8月20日	しらすかの森 テニスコート
17	ゲートボール	真 舟	本 沼	大 信 旭 町	8	38	8月21日	すばーく白河
18	卓 球	みさか	中 田	新白河	5	25	9月4日	第一市民体育館
19	柔 道	個人戦				16	9月4日	白河市営武道館
20	剣 道	個人戦				40	9月10日	国体記念体育館
21	パークゴルフ	個人戦				32	9月16日	総合運動公園内 パークゴルフ場
22	少林寺拳法	公開種目				中 止	10月2日	大沼市民体育館
23	登 山	オープン種目				33	10月9日	谷川岳(群馬県)
24	弓 道	個人戦				42	10月2日	白河市営武道館
25	スポーツ吹矢	個人戦				70	10月16日	国体記念体育館
26	少年サッカー (フットサル)						1月28日 29日	アナビススポーツプラザ
町内対抗戦廃止(町内順位無し)					参加人数 971人		前年度	参加人数 1,168人

第57回白河市民総合体育大会は、サッカー競技を残すのみとなり、今回の延べ参加人数は971人で前々回1,313人、前回1,168人と残念ながら年々参加人数が減少しています。

そこで、この夏『より多くの市民が参加したくなるような大会』をテーマに、市民総体見直しプロジェクトチームを結成いたしました。検討会議においては、それぞれの立場から熱い意見交換を重ね、第58回から楽しく活気ある大会を市民の皆さんに提供していきたいと考えています。

まずはあなたの第1歩！ ご参加をお待ちしています！

平成28年度NPO法人白河市体育協会賛助会員

財源基盤の確立と強化のために募集させていただいた賛助会員にご賛同とご支援をいただき誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。おかげさまで、ご協力賜りました賛助会費は、本会の事業推進の経費として有効に活用させていただいております。活動を継続しさらに充実させるために、安定的な自主財源の確保が必要になりますので、今後ともよろしくご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

《団体会員》

(有) エビナ	(有) 大高重機	会星産業 (株)
協業組合白河地方リサイクルセンター	(株) 共和建商	こちや自動車工業 (株)
(株) サンメリット白河	(株) サン・ベンディング白河	医療法人社団 博英会
医療法人社団 慈泉会	(有) 白河衛生社	サクラ工業 (株)
(株) 昇栄	高橋自動車工業 (株)	(株) 高橋工材
(株) 中商	福島小松フォークリフト (株)	藤田建設工業 (株)
(株) 松本工務店	(株) 鈴木建設	(株) 緑川産業
(有) 水啓木材	(有) 村上運動具店白河店	(有) アルファ
カルチャーネットワーク	(有) ワタベ印刷所	(株) 共和建商
県南バドミントン協会	夢みなみ農業協同組合	さくらい
新白河ゴルフ倶楽部 (株) エスジーシー	(株) 大東銀行	(有) 忠光自動車整備工場
日工技研 (株)	日本工機 (株) 白河製造所	医療法人博英会

《個人会員》

青村 修明 (青村歯科医院)	荒谷 俊彦 (白河高原フィールドアーチェリーレンジ)	有賀 初子 (愛宕山パークゴルフ場)
近藤 寛 (近藤種苗店)	植野 浄	今井 令雄
大高 貞男	大竹 信二	斎藤 和夫
安田 豊	※他に匿名希望 1名	

(平成28年4月1日から平成28年11月30日までご賛同いただいた方を掲載 順不同・敬称略)

編集後記

広報誌も第7号を迎えました。今回は、東・大信・表郷地区の小学校6校に、各小学校での体育指導方針や活動状況、特色等について、原稿を依頼いたしました。お忙しい中、大変ありがとうございました。

今回の第1面は、リオパラリンピックボッチャ競技で銀メダルを獲得した、日本選手団のヘッドコーチとして参加した村上光輝氏(白河市在住)に寄稿を依頼いたしましたところ、快くご承諾いただき「銀メダルへの道のり」等について、原稿をいただきましたこと、感謝申し上げます。

2020年の東京オリンピックに、白河の大地から選手として出場する人が一人でも多く出てくれることを、スタッフ一同願っております。

今後も、定期的に広報誌の発行を続けてまいりますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

(広報担当: 三森一男、事務局 高橋利夫・深谷光男・松崎真由美・有馬比呂美)